

壬生町就労支援施設 むつみの森

地域の中でいきいきと暮らそう



〒321-0216
栃木県下都賀郡壬生町大字壬生丁232-3
TEL 0282-82-6,174
FAX 0282-81-0236
E-mail mutsumi@mibu-Shakyo.net
URL <http://mibu-Shakyo.net/>



壬生町就労支援施設
むつみの森

設置者／壬生町 指定管理者／社会福祉法人 壬生町社会福祉協議会



お殿様の宝箱
誕生日のカタチ



右上肖像画：島居忠英公（常樂寺貳）

中央絵画：壬生城大手御門



元忠公の優しさが息吹くまち・みぶ！
「家康に天下を取らせた男」鳥居元忠公にお届けしたい缶詰パン！

「お殿様の兵糧」 ひょうろう

『伏見城の戦い（山城伏見城の別れ）』

天下分け目といわれる関ヶ原の戦いは、1600年（慶長5年）9月15日に行われました。それに先立ち、豊臣秀吉の死後、政治への影響力を強めていた家康は、決戦前の6月18日に上杉景勝を討伐するとして会津へ向かいます。その時に、1,800名の兵とともに伏見城の守りを託されたのが、家康の股肱の臣「鳥居元忠公」です。

家康は、会津へ向けて伏見城を発つ前夜、家康は元忠を呼び「伏見城に残していく兵が少ないな。」と気遣う言葉をかけています。それに対し、元忠は、「会津は強敵ですから、一人でも多くの兵を連れて行ってください。もしも合戦となれば、この近くに頼れる援軍もなく、たとえ10倍の兵を残されたとしても防ぐことはできないでしょう。伏見城は私一人で十分でございます。」と答えました。その夜二人は、夜更けまで語り合い、元忠は「お留守の間に変事が無ければ、またお目にかかるでしょう。もし事があれば、今夜が永きお別れにございます。」と席を立ち、家康は流れる涙を拭いたとのことです。

その後、元忠公は少数の兵で西軍を釘付けにし、10日以上の攻防の末に城と運命を共にしました。この元忠公による西軍の足止めが無かったなら、関ヶ原の戦いの結果は、違ったものになっていたかもしれません。忠義の武将元忠公の活躍が、家康に天下を取らせたと言えるのではないでしょうか。

『高天神城の戦い』

また、元忠公には兵糧にまつわる興味深い話も残されております。元忠公は、1581年（天正9年）家康に従い、岡部元信が守る、武田方の遠江・高天神城攻めに参加します。この攻防戦において、困ったことが起きました。後方から来るはずの兵糧がなかなか届かず、城を包囲中の軍勢が飢えに苦しみ始めてしまったのです。

そんな事態に元忠公の配下である、ある兵が、近隣の民家にて僅かばかりの食物を入手し、せめて主君にだけでも腹を満たしてもらおうと、その食物を元忠公に差し出していました。しかし、元忠公はその食物には箸をつけずに、それどころかなんと貴重なその食物を投げ捨ててしまいます。「部下が飢えている中、俺一人だけ、飯など食えるか。お前たちこそ飯を食べたのか。一緒に苦労してこそ武功を上げられると思っている。共に餓死する覚悟だ。」というのが、元忠公の言葉でした。この言葉に、元忠の配下の将兵たちは感激して士気が上がり、のちの戦いで勝利を収めたと言われております。

以上のように、元忠公は、忠義の士であると共に、配下の将兵をも思いやる心優しい武将だったのです。現在の優しさの息吹く住みたい住み続けたいまち・みぶの原点は、間違いなく元忠公にあります。そんな元忠公が、獅子奮迅の戦いをなされた高天神城の戦いや伏見城の戦いの陣中にお届けしたいのが、今回発売させていただきます缶詰パン「お殿様の兵糧」です。「お殿様の兵糧」は、栃木県が開発した苺の新品種「とちあいか」で製造したジャム「Tono 愛果」を練り込んだ缶詰パンです。「Tono 愛果」ジャムは、お殿様も愛したであろう果実「とちあいか」で製造したジャムで、それを練り込んだパンは、最高に美味です。

そんな美味しいパンを、現在の壬生町から元忠公にお届けしたら、さぞかしある喜びになられ、なるだろうなと思い開発したのが、「お殿様の兵糧」です。

※兵糧

兵糧（ひょうろう）とは、戦時における軍隊の食料のこと。日本においては主食である米について論じられることが多い、兵糧米（ひょうろうまい）などと呼ばれている。米の他にも塩や大豆（馬の兵糧としても重要視された）なども含まれている。